

栗山町第6次総合計画 計画事業評価シート

政策分野	002	教育	政策項目	007	生涯教育	施策	022	幼児・家庭教育の推進	担当課	教育委員会事務局（教
------	-----	----	------	-----	------	----	-----	------------	-----	------------

番号	計画事業名	区分	事業開始年度	事業終了年度
054	家庭教育の機能を高める啓発・支援を行います。	継続	平成27年度	平成34年度

	指標項目	基準値	平成27年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度		指標設定の考え方
			計画	実績	計画	実績	計画	実績	計画	実績	
活動指標	講演会・学習会・交流事業等の実施（単位：回）	0	1	0	1	0	1	0	1	0	基準値：H25
	連携会議の開催（単位：回）	0	2	0	2	0	2	0	2	0	基準値：H25
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	
成果指標	講演会・学習会・交流事業等への参加（単位：人）	0	80	0	80	0	80	0	80	0	基準値：H25
	連携会議への参加（単位：人）	0	20	0	20	0	20	0	20	0	基準値：H25
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	

【担当課評価】

項 目	判断基準
必 要 性	1. 目標設定が町民ニーズ等に合致している。課題解決のために不可欠な事業である。
	課程・子どもを取り巻く環境が変化している中で、関係機関・団体が連携し、学習・実践を通じて家庭教育の機能を高めることがより良い家庭環境を築くことにつながることから、目的、設定は妥当である。
妥 当 性	2. 民間等が主体的に実施すべき事業であるが、現段階では行政で実施する必要がある。
	町内に本事業を委託等ができる団体等はないが、今後委ねられる団体等が出てきた場合は、事業の委託も考えられる。
有 効 性	1. 目的を達成するための手段として有効であり、最適な実施方法である。
	心身ともに豊かな子どもたちを育むために、関係機関・団体との連携による家庭教育支援のより一層の充実を図るための協議や学習機会を提供しており、最適な実施方法である。
効 率 性	2. 事業費コストに改善の余地がある。
	講演会などの講師謝礼については、福祉部局の事業と連携を図ることにより、コストを下げることは考えられる。
公 平 性	1. 受益者負担が適正であり、特定の個人や団体に偏っていない。
	受益者負担は適正である。

項 目	事業把握
前年度評価に対する改善内容	各種団体との連携により講演会の実施。
課題・問題点	子育てや家庭教育に関わる関係機関・団体などとの連携強化が必要。
改善策	各種団体との連携強化を図る。

【総合評価】

区 分	評価内容・指示事項
1 次 評 価	1. 計画通りに進める
	P T A や福祉部局との連携はもとより、家庭教育サポート企業との連携を行う。
2 次 評 価	1. 計画通りに進める
	1次評価と同様
外 部 評 価	
最 終 評 価	1. 計画通りに進める
	2次評価と同様

栗山町第6次総合計画 計画事業評価シート

政策分野	002	教育	政策項目	007	生涯教育	施策	023	青少年教育の推進	担当課	教育委員会事務局（教
------	-----	----	------	-----	------	----	-----	----------	-----	------------

番号	計画事業名	区分	事業開始年度	事業終了年度
055	自然・社会体験など、青少年の体験活動の機会を提供します。	継続	平成27年度	平成34年度

	指標項目	基準値	平成27年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度		指標設定の考え方
			計画	実績	計画	実績	計画	実績	計画	実績	
活動指標	キッズクラブ事業の実施（単位：回）	9	9	7	9	0	9	0	9	0	基準値：H25
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	
成果指標	キッズクラブ事業への参加（単位：人）	180	180	170	180	0	180	0	180	0	基準値：H25
	キッズクラブ事業への支援（単位：人）	7	10	50	10	0	10	0	10	0	基準値：H25 ※事業に関わった大人、○B
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	

【担当課評価】

項 目	判断基準
必 要 性	2. 目標設定が町民ニーズ等に概ね合致している。課題解決のために必要な事業である。
	青少年を対象としたふるさと教育事業の一環として重要な柱となっている事業であるが、土曜授業の導入や学校の自然体験プログラムの拡大に伴い、キッズクラブ事業としての独自性はなくなってきている。
妥 当 性	1. 公共性・公益性が高いことから、行政が主体的に実施すべき事業である。
	指導機能はNPO雨煙学校が担っており、小中学校などと連携して事業を実施している。
有 効 性	2. 目的を達成するためには、別の手段も考えられるが、現段階では最善の方法である。
	教育委員会がコーディネート機能を担い、NPO雨煙別学校をはじめさまざまな機関、団体と連携して実施している。青少年を対象とした自然教育事業は育成会も実施しているため、一本化する余地はある。
効 率 性	1. 事業費コスト及び人件費コストに見合った効果が期待でき、費用対効果が高い。
	NPO雨煙別学校のプログラムを主に利用している。事業費コストにおける費用対効果としては、大いに効果が期待できる。人件費については、子どもを対象とした事業において、安全面の確保を優先とした場合、現在のコストは適正である。
公 平 性	1. 受益者負担が適正であり、特定の個人や団体に偏っていない。
	現在参加者の食糧費については自己負担としており、今後の負担額割合については協議を行い、都度最適化を図ることが可能である。

項 目	事業把握
前年度評価に対する改善内容	自然保全活動の導入として、ハサンベツ里山地区の水辺の生物調査活動を年間を通して実施している。
課題・問題点	自然保全活動の導入として調査活動を取り入れたが、調査活動をプログラムの主とした事業実施では参加者が極端に減少している。教育分野事業としての意義と参加者ニーズの不一致が課題としてある。
改 善 策	年間プログラムを見直し、参加者ニーズを踏まえたプログラムの追加と組み合わせでの自然保全活動の実施を検討している。

【総合評価】

区 分	評価内容・指示事項
1 次 評 価	1. 計画通りに進める
	参加者の安全面等に配慮し、計画通り実施する。
2 次 評 価	1. 計画通りに進める
	1次評価と同様
外 部 評 価	
最 終 評 価	1. 計画通りに進める
	2次評価と同様

栗山町第6次総合計画 計画事業評価シート

政策分野	002	教育	政策項目	007	生涯教育	施策	023	青少年教育の推進	担当課	教育委員会事務局（教
------	-----	----	------	-----	------	----	-----	----------	-----	------------

番号	計画事業名	区分	事業開始年度	事業終了年度
056	青少年育成会活動を支援します。	継続	平成27年度	平成34年度

	指標項目	基準値	平成27年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度		指標設定の考え方
			計画	実績	計画	実績	計画	実績	計画	実績	
活動指標	関係団体補助金	864	864	864	864	0	864	0	864	0	関係団体支援のための補助金
	青少年育成会事業の実施	5	5	5	5	0	5	0	5	0	リーダー研修会・かるた大会
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	
成果指標	青少年育成団体数（単位：団体）	60	60	60	60	0	60	0	60	0	
	青少年育成会事業への参加（単位：人数）	91	70	52	70	0	70	0	70	0	基準値：H25
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	

【担当課評価】

項 目	判断基準
必 要 性	1. 目標設定が町民ニーズ等に合致している。課題解決のために不可欠な事業である。
	青少年の健全育成を支援していくために、必要な事業であると判断する。
妥 当 性	1. 公共性・公益性が高いことから、行政が主体的に実施すべき事業である。
	育成会事業等に対する支援、運営等に対する補助金の交付事務などが、主な取り組み内容であることから、行政主体となる事業であると判断する。
有 効 性	1. 目的を達成するための手段として有効であり、最適な実施方法である。
	現行の運営委員会（地区育成会）を中心とした組織運営及び事業等への支援により、各種青少年の育成事業を実施していることから、最適な手法であると判断する。
効 率 性	1. 事業費コスト及び人件費コストに見合った効果が期待でき、費用対効果が高い。
	各種事業運営、各地区育成会への補助金についても現行の内容で円滑に事業運営ができていることから適切と判断する。
公 平 性	2. 特定属性の不特定多数の個人・団体を対象としている。
	町内の青少年及びその保護者が対象であり、地域全体の事業であることから、公平性が図られていると判断する。

項 目	事業把握
前年度評価に対する改善内容	－
課題・問題点	今後も地域と連携をとりながら事業を進めていくこととする。
改善策	今後も地域と連携をとりながら事業を進めていくこととする。

【総合評価】

区 分	評価内容・指示事項
1 次 評 価	1. 計画通りに進める
	今後も地域と連携を図りながら、事業を進めていくこと。
2 次 評 価	1. 計画通りに進める
	1次評価と同様
外 部 評 価	
最 終 評 価	1. 計画通りに進める
	2次評価と同様

栗山町第6次総合計画 計画事業評価シート

政策分野	002	教育	政策項目	007	生涯教育	施策	024	成人・高齢者教育の推進	担当課	教育委員会事務局（教
------	-----	----	------	-----	------	----	-----	-------------	-----	------------

番号	計画事業名	区分	事業開始年度	事業終了年度
057	町民の多様な学びの機会づくりを行います。	継続	平成27年度	平成34年度

	指標項目	基準値	平成27年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度		指標設定の考え方
			計画	実績	計画	実績	計画	実績	計画	実績	
活動指標	学習機会の提供（単位：講座）	11	15	2	15	0	15	0	15	0	基準値：H25 ※講座開催数
	学習機会の提供（単位：日）	33	40	9	40	0	40	0	40	0	基準値：H25 ※講座開催日数
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	
成果指標	講座への参加（単位：人）	301	400	37	400	0	400	0	400	0	基準値：H25
	講座参加者の満足度（単位：段階）	4	4	4	4	0	4	0	4	0	基準値：H25 ※5段階による満足度
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	

【担当課評価】

項 目	判断基準
必 要 性	1. 目標設定が町民ニーズ等に合致している。課題解決のために不可欠な事業である。
	各種講座を開講することにより、町民への学びの意識の向上が図られること。また、生涯学習の理解と必要性を伝え、自主的な動機づけとするための住民への情報提供は必須であり、目標設定は妥当である。
妥 当 性	2. 民間等が主体的に実施すべき事業であるが、現段階では行政で実施する必要がある。 町民講座は、指定管理者にて同様の事業展開を実施しているので可能。地域大学は、町内に委託等ができる団体等はないが、今後委ねられる団体等が出てきた場合は、事業の委託も考えられる。
有 効 性	1. 目的を達成するための手段として有効であり、最適な実施方法である。
	各種講座終了時に、受講者アンケートを行っており、住民ニーズに即した実施方法である。
効 率 性	2. 事業費コストに改善の余地がある。
	受講者負担金を徴収していない講座もあることから、均一に受講料を徴収することでコスト軽減を図ることは考えられる。
公 平 性	1. 受益者負担が適正であり、特定の個人や団体に偏っていない。
	受益者負担は適正である。

項 目	事業把握
前年度評価に対する改善内容	受講者との話しあいにより講座内容の決定。
課題・問題点	受講者の固定化。
改善策	新規の受講生を増やすために、周知方法の工夫をする。

【総合評価】

区 分	評価内容・指示事項
1 次 評 価	1. 計画通りに進める 教委と指定管理者との役割分担を実施している。更に参加者ニーズの把握を実施している。
2 次 評 価	1. 計画通りに進める 1次評価と同様
外 部 評 価	
最 終 評 価	1. 計画通りに進める 2次評価と同様

栗山町第6次総合計画 計画事業評価シート

政策分野	002	教育	政策項目	007	生涯教育	施策	024	成人・高齢者教育の推進	担当課	教育委員会事務局（教
------	-----	----	------	-----	------	----	-----	-------------	-----	------------

番号	計画事業名	区分	事業開始年度	事業終了年度
058	高齢者が喜びと生きがいを感じる学びの機会を提供します。	充実	平成27年度	平成34年度

	指標項目	基準値	平成27年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度		指標設定の考え方
			計画	実績	計画	実績	計画	実績	計画	実績	
活動指標	高齢者大学の開催（単位：回）	8	7	5	7	0	7	0	7	0	基準値：H25
	いきいき塾の開催（単位：回）	0	3	1	3	0	3	0	3	0	基準値：未実施
	定年世代向け町民講座の開催（単位：講座）	0	2	0	2	0	2	0	2	0	基準値：未実施
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	
成果指標	高齢者大学への参加（単位：人）	162	160	163	160	0	160	0	160	0	基準値：H25 ※1回以上受講した実人数（クラブ、文集作成以外）
	いきいき塾への参加（単位：人）	0	30	21	30	0	30	0	30	0	基準値：未実施
	定年世代向け町民講座への参加（単位：人）	0	40	0	40	0	40	0	40	0	基準値：未実施
	定年世代向け町民講座の満足度（単位：段階）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	基準値：H25（未実施） ※5段階評価
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	

【担当課評価】

項 目	判断基準
必 要 性	2. 目標設定が町民ニーズ等に概ね合致している。課題解決のために必要な事業である。
	高齢社会が進んでいる中で、さらに高齢者の学習を通じた社会参加の一層の促進が必要であり、目的設定は妥当である。
妥 当 性	2. 民間等が主体的に実施すべき事業であるが、現段階では行政で実施する必要がある。
	高齢社会に向かい、より受講生の活動意欲を図るため町の主催事業として継続するのが望ましいが、老人クラブ連合会など、対象者が重複する団体への委託を検討していきたい。
有 効 性	2. 目的を達成するためには、別の手段も考えられるが、現段階では最善の方法である。
	現在はE k iを中心に事業展開されているが。市街地だけではなく各地区（北部、中部、南部）に分かれた受講方式なども考えたが、他の老人クラブとの交流を考えると一同に会して行う現在の方法が良いのではないかと考える
効 率 性	1. 事業費コスト及び人件費コストに見合った効果が期待でき、費用対効果が高い。
	クラブ活動における講師謝礼にかかる受講者負担は検討できる。現在はバス研修と宿泊研修時に受講者負担金を徴収しているが、講演会等の受講料徴収は難しいと考える。
公 平 性	1. 受益者負担が適正であり、特定の個人や団体に偏っていない。
	－

項 目	事業把握
前年度評価に対する改善内容	前期高齢者に対する講座、介護福祉学校との連携講座、小学生との交流事業を実施。
課題・問題点	社会福祉協議会（老人クラブ連合）等で行っている、同種事業との連携。前期高齢者の社会参画。
改善策	いきいきスクールに関しては、従来通り受講生を企画・運営に関わらせることによって、ねらいを共有する。前期高齢者に町事業や地域活動参加のきっかけとする講座を企画し、周知方法を工夫する。

【総合評価】

区 分	評価内容・指示事項
1 次 評 価	1. 計画通りに進める
	前期高齢者むけの講座を開催すること。今後も、いきいきスクールと、老人クラブ連合、町民講座等の事業とのねらいを精査し、共催できるところは協働して行うこと。
2 次 評 価	1. 計画通りに進める
	1次評価と同様
外 部 評 価	
最 終 評 価	1. 計画通りに進める
	2次評価と同様

栗山町第6次総合計画 計画事業評価シート

政策分野	002	教育	政策項目	007	生涯教育	施策	025	図書館活動の推進	担当課	教育委員会事務局（教
------	-----	----	------	-----	------	----	-----	----------	-----	------------

番号	計画事業名	区分	事業開始年度	事業終了年度
059	町民の読書活動を支援します。	継続	平成27年度	平成34年度

	指標項目	基準値	平成27年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度		指標設定の考え方
			計画	実績	計画	実績	計画	実績	計画	実績	
活動指標	図書の購入（単位：冊）	5,857	6,500	3,441	6,500	0	6,500	0	6,500	0	基準値：H24
	図書館蔵書数（単位：冊）	154,205	150,000	91,372	150,000	0	150,000	0	150,000	0	基準値：H24
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	
成果指標	図書館の利用（単位：人）	51,816	55,000	19,971	55,000	0	55,000	0	55,000	0	基準値：H24
	図書の貸し出し（単位：冊）	124,412	150,000	49,531	150,000	0	150,000	0	150,000	0	基準値：H24
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	

【担当課評価】

項 目	判断基準
必 要 性	1. 目標設定が町民ニーズ等に合致している。課題解決のために不可欠な事業である。
	読書習慣の定着は、表現力を高め、創造力を豊かなものとし、子どもの自己形成を図れることから、読書環境を計画的に整備することは極めて重要な課題であり、目標設定は妥当である。
妥 当 性	1. 公共性・公益性が高いことから、行政が主体的に実施すべき事業である。
	指定管理者制度を導入済。町有施設であり、町の政策的な事業である。
有 効 性	1. 目的を達成するための手段として有効であり、最適な実施方法である。
	アンケートを取り入れたり、ボランティアで編集委員会が作成したり等、最適な実施方法である。
効 率 性	1. 事業費コスト及び人件費コストに見合った効果が期待でき、費用対効果が高い。
	事業の性格上、子ども自己形成のための予算として、現状維持が望ましい。
公 平 性	1. 受益者負担が適正であり、特定の個人や団体に偏っていない。
	受益者負担は取っていない。

項 目	事業把握
前年度評価に対する改善内容	周知徹底を図る。
課題・問題点	図書館システムの活用方法、司書の役割、ミニくり本の紹介等、教諭並びに児童生徒への周知徹底。中学生の読書普及。
改 善 策	継続的な周知活動を図る。

【総合評価】

区 分	評価内容・指示事項
1 次 評 価	1. 計画通りに進める
	学校の先生と連携を図り、定期的に図書館システムを活用した学習のための資料準備、資料を使った調べ学習、先生との月例ミーティングを設定し、相互の情報交換行う等、学校にとって役立つ司書としての活動を拡大する。
2 次 評 価	1. 計画通りに進める
	1次評価と同様
外 部 評 価	
最 終 評 価	1. 計画通りに進める
	2次評価と同様

栗山町第6次総合計画 計画事業評価シート

政策分野	002	教育	政策項目	007	生涯教育	施策	026	社会教育施設の整備	担当課	教育委員会事務局（教
------	-----	----	------	-----	------	----	-----	-----------	-----	------------

番号	計画事業名	区分	事業開始年度	事業終了年度
060	老朽化した社会教育施設の改修などを計画的に行います。	充実	平成27年度	平成34年度

	指標項目	基準値	平成27年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度		指標設定の考え方
			計画	実績	計画	実績	計画	実績	計画	実績	
活動指標	施設改修数（単位：施設）	7	2	4	1	0	1	0	1	0	基準値：H25
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	
成果指標	社会教育施設数（単位：施設）	7	7	7	7	0	7	0	7	0	基準値：H25 ※改修した施設数
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	

【担当課評価】

項 目	判断基準
必 要 性	1. 目標設定が町民ニーズ等に合致している。課題解決のために不可欠な事業である。
	社会教育施設の安全な利用を行っていくために必要と判断する。
妥 当 性	1. 公共性・公益性が高いことから、行政が主体的に実施すべき事業である。
	公共施設のため、行政が主体的に実施する必要があると判断する。
有 効 性	1. 目的を達成するための手段として有効であり、最適な実施方法である。
	最適な実施方法である。
効 率 性	1. 事業費コスト及び人件費コストに見合った効果が期待でき、費用対効果が高い。
	余地はない。
公 平 性	1. 受益者負担が適正であり、特定の個人や団体に偏っていない。
	公共施設の利用料金として利用料金を公平に負担していただいている。

項 目	事業把握
前年度評価に対する改善内容	修繕を実施。
課題・問題点	老朽化施設であることから、毎年修繕箇所が突発的に発生してくる事が予想される。
改善策	修繕計画に基づいた修繕が必要とされる。

【総合評価】

区 分	評価内容・指示事項
1 次 評 価	1. 計画通りに進める
	安全な施設管理体制の整備が必要。
2 次 評 価	1. 計画通りに進める
	1次評価と同様
外 部 評 価	
最 終 評 価	1. 計画通りに進める
	2次評価と同様

栗山町第6次総合計画 計画事業評価シート

政策分野	002	教育	政策項目	007	生涯教育	施策	027	ふるさと教育の推進	担当課	教育委員会事務局（教
------	-----	----	------	-----	------	----	-----	-----------	-----	------------

番号	計画事業名	区分	事業開始年度	事業終了年度
061	地域総ぐるみで「ふるさと教育」を推進します。	継続	平成27年度	平成34年度

	指標項目	基準値	平成27年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度		指標設定の考え方
			計画	実績	計画	実績	計画	実績	計画	実績	
活動指標	地域教育協議会の開催（単位：回）	2	9	5	9	0	9	0	9	0	基準値：H25
	ふるさと教育事業の実施（単位：回）	3	7	5	7	0	7	0	7	0	基準値：H25
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	
成果指標	地域教育協議会への参加（単位：人）	90	140	149	140	0	140	0	140	0	基準値：H25
	ふるさと教育事業への参加（単位：人）	210	250	186	250	0	250	0	250	0	基準値：H25
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	

【担当課評価】

項 目	判断基準
必 要 性	1. 目標設定が町民ニーズ等に合致している。課題解決のために不可欠な事業である。
	子どもを取り巻く環境が変化している中で、学校、家庭、地域が一体となって教育活動の充実を図ることがより良い教育環境を築くことにつながることから、目標設定は妥当である。
妥 当 性	2. 民間等が主体的に実施すべき事業であるが、現段階では行政で実施する必要がある。
	町内に本事業を委託等ができる団体等はない。
有 効 性	1. 目的を達成するための手段として有効であり、最適な実施方法である。
	心身ともに豊かな子どもたちを育むために、学校、家庭、地域が連携しながら内容の検討や事業展開を行っており、最適な実施方法である。
効 率 性	2. 事業費コストに改善の余地がある。
	地域コーディネーターの活動謝礼について、関係団体等の連携や組織体制の充実を図ることにより、コスト削減する余地はある。
公 平 性	1. 受益者負担が適正であり、特定の個人や団体に偏っていない。
	地域全体の事業であることから、公平性が図られていると判断する。

項 目	事業把握
前年度評価に対する改善内容	－
課 題 ・ 問 題 点	ふるさと教育交流会、水泳支援、スキー支援などを実施しているが、町民への認知度が低い。
改 善 策	周知、浸透させる方法をメンバー内で探り、出された方策を実行に移す。

【総合評価】

区 分	評価内容・指示事項
1 次 評 価	1. 計画通りに進める 学校、家庭、地域が一体となった地域ぐるみの体制づくりが必要となる事から、今後も活動を継続して行く必要がある。
2 次 評 価	1. 計画通りに進める 地域教育協議会、コミュニティスクール、家庭教育サポート企業など、それぞれの連携強化を図りながら、学校・家庭・地域が一体となったふるさと教育を推進すること。
外 部 評 価	2. 現状どおり継続 認知度を高めながら様々な対象者を巻き込んで広げていく工夫が必要。試行実施した事業も、町民が広く関われる仕組みを検討し本格実施につなげること。学校や家庭教育サポート企業との連携を強めた展開、広く町民から意見等を集めた分析結果を踏まえた展開に期待。推進体制を充実させ、個別事業の位置づけや事業間の相乗効果を考慮し、かつ継続的に進めること。
最 終 評 価	1. 計画通りに進める 事業推進に当たっては、より多くの子ども、保護者など、対象者の参加拡大に向けた仕組みを早急に構築すること。